

会報十一月号 来年の干支く壬寅(みずのえとら)

目次

- ・干支(えと)について
- ・二〇一八年からの流れ
- ・二〇二二年は壬寅(みずのえとら)
- ・壬寅の年の出来事
- ・来年の予測 まとめ

●干支(えと)について

この時期の恒例となった「来年の干支」シリーズ。
まず、「干支(えと)」について。干支は、占いや易の簡易版ではない。干支は、生命や活動の生成化育、つまり、発生↓成長↓成熟↓衰退↓収蔵という循環過程を分類し約説した経験哲学である。

「干支」の「干」は根幹であり、生命や活動の内外対応(レスポンス・陰)の原理を十種類に分類したものの、「支」は枝葉として伸び行く(チャレンジ・陽)、生命・細胞の始まり(分裂)から、組織の成長↓成熟↓老衰↓死(継承)↓また元の細胞へ還るといふ過程を十二段階に説明し、これら干支の最小公倍数六十種類に組み合わせたものに順って、時局の意義や、そこに対処する自覚や覚悟を帰納的に解明し啓示したものである。

年にしたら六十年目に暦が還る(還暦)。月とすれば六十ヶ月、五年。日ならば六十日、二ヶ月。時間なら六十分、一時間で循環する。

「十干(じっかん)」は、甲(こう)・乙(おつ)・丙(へい)・丁(てい)・戊(ぼ)・己(き)・庚(こう)・辛(しん)・壬(じん)・癸(き)の十種類。
「十二支(じゅうにし)」は、子(ね)・丑(うし)・寅(とら)・卯(う)・辰(たつ)・巳(み)・午(うま)・未(ひつじ)・申(さる)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(い)の十二種類。

干支は幹と枝葉の関係なので、干(幹)の方が大切。そこで干支(えと)は兄弟(えと)という意味をとる。そして、自然や人間の営みや作用の根本要素である「五

行」とも結びついた。五行とは「木・火・土・金・水」の五つ。干に五行が結びつき兄弟（えと）に分かれて木・火・土・金・水が配される。

十干の最初の「甲」は木の兄（きのえ）、次の「乙」は木の弟（きのと）、「丙」は火の兄（ひのえ）、「丁」は火の弟（ひのと）、「戊」は土の兄（つちのえ）、「己」は土の弟（つちのと）、「庚」は金の兄（かのえ）、「辛」は金の弟（かのと）、「壬」は水の兄（みずのえ）、「癸」は水の弟（みずのと）となる。

甲子（きのえね）から癸亥（みずのと）の六十年で一巡し、翌年また甲子（きのえね）に還る（還暦、本卦還り）。

前述したように、干支は、生命や活動の発生↓成長↓成熟↓衰退↓収蔵の種類や、エネルギーの推移を時代に当てはめて解説したもので、個人の日常生活の細かいことには適用するものではない。

ただ、元来迷いやすい人間は、情報が氾濫し続けている世の中においては、何か真実の一筋を通していく原理を心に持つことも有益である。干支はその一つになる。これを社会・時勢の推移に適用することで、時運の流れ（理）を見つけ、その理に順って自らの処し方を決め（義）、誠を尽くしていくのである。

●二〇一八年からの流れ

二〇一八年の「戊戌（つちのえいぬ）」は、どちらの文字も茂（しげる）であり、それは繁茂による紛糾とその後の衰退を意味する。従って、よく剪定（省く・断捨離）して賦活しなければならない。思い切った変革が必要な年であった。

二〇一九年の「己亥（つちのとい）」は、繁茂の後を受けて、紛糾にケジメをつけて物事の筋を通し、自分の力を外に発揮していく年。

二〇二〇年は「庚子（かのえね）」。「庚」は「更（あらたまる）」に通じ、更・継ぐ・償うという意味。二〇一九年を継続して、その失（沈滞や怠慢）を償い、諸事更新して、澁刺とした状態に持っていくべきことを示している。これを怠ると破壊という大きな痛みを伴う革命が必要となる。

二〇二一年は「辛丑（かのとうし）」。「辛（かのと）」は、下にある陽のエネルギーが敢然として上に現出する形であり、上に向かって求め冒していく。そこには矛盾・闘争・犠牲という痛みも含む。「辛」は「新」に通じ、「庚（かのえ）」を受け継いだ革新を意味するが、上をおかす（下克上）ことでもある。

●来年、二〇二二年は壬寅「（みずのえとら）」。

「壬（みずのえ）」は、内在するものが増大する形であり、三つの意味がある。

第一は、はらむ（妊・娠）。壬を象形的にみると、女の懐妊の姿を示すとされる。

真ん中の「一」が長いのはそのため。来年について言えば、多くの問題をはらむということがある。

第二は荷物を担うこと。ここから、事を担当する、役目に就く、責任を持つという意に用いられ、任命・任用という語が生まれる。多くの問題や仕事に処していかなくてはならない。

第三は、「へつらう」。意志が弱くて人にへつらう人間を任人という。任人は佞人（ねいじん）に通じ、口先だけの信頼のおけない人間を意味するようになった。大きな仕事、大切な役目を佞人が担うようになれば、大変なことになる。

来年に起こる多くの問題には立派に処していかなければならない。任務・仕事は必然的に増えてくる。従って、仕事に任ずる人物がどんどん出てこなければならぬ。が、どうしても私心・私欲・野心を逞しくする人物の方が多く出てくるのが世の常である。利口でずる賢い人間や、野心をもった時局便乗型の人間がたくさん出てくることと考えられる。だからこそ、そういう中であって、時代の任務を背負って、それを立派にやり遂げてゆくような良い意味での壬人が出てくればよいが、そうでなければ大変なことになる。大任に当たる人は、よほど勇気を出して小人（佞人）に負けないようにやらなければならない。遠慮・引っ込み思案な「どうでもいいひと、都合のいいひと」を演じてしまい、とんでもない野心家や佞人が社会に蔓延るようではいけない。良い意味での壬人が出るか、悪い佞人が出るか、自分はどうするのか。これが二〇二二年の眼目であり、従って、壬の年は人事に最も注意を払わなければならない。

「寅（とら）」の字の「ウ冠」は建物、組織、存在を表し、真ん中の「苗のような形」は人が差し向いに泣いている象形文字で、手を合わせる・約束する・協力する意味を表し、下の「ハ」は人。だから、「慎む・助ける」という意味がある。しかし、助け合うには一人ではどうにもならない。志を同じくする者同士が助け合う。そうして初めて人間は進歩成長していくことができる。だから「寅」は「演」に通じ、進展を意味する。しかし、物事は進んでいるときに失敗するものである。その恐るべきものを中国の古代農耕民族は虎で表現した。寅には「恐れ慎む」という意味がある。何か景氣がいいように思い込んでいる人がいるが、意味は本当は反対。寅は「つつしむ、たすける」である。この寅の字を使った熟語には、同僚という意味の「同寅（どういん）」、同僚のよしみという意味の「寅誼（いんぎ）」、同志合い助けて、曲事や公害を清めるという意味の「寅清（いんせい）」等がある。

解決すべき問題というものは、自己の問題として考えて初めてその困難を乗り切ることができる。ところが人間は案外自分自身を省みないので、たいていは他人事か世間のこととして興味を持つだけである。「内閣は何をやっているのか」「医師会は何をやっているんだ」というようなことは誰でも言えるが、「それではあなたはどうするつもりなのか」と訊ねると、大した答えは返ってこないものである。他人の責任であり、政治家や社会の問題にしてしまう。結局は、国民皆が協力してやらなければ乗り切れない。そういうことをひとりひとりが自覚して、それぞれの自己の本分を尽

くしていくことが、今日の危機を救う一番の近道である。

●壬寅の年の出来事

一九六二年

- 一月 西サモア、ニュージールランドより独立
アメリカ合衆国海軍、ベトナム戦争において特殊部隊ネイビーシールズを結成
ペルーのワスカラン山で雪崩発生、四千人以上が死亡
- 二月 東京都の常住人口一千万人突破（世界初の一千万都市）
米ケネディ大統領、キューバへの全面禁輸を指令
西ヨーロッパ十二カ国共同で欧州宇宙機関創設
西インド諸島連邦解体
ソ連・チェコ間にパイプライン完成
- 三月 ビルマで軍事クーデター発生
エヴィアン協定締結（翌日をもってアルジェリア戦争停戦）
- 四月 名古屋放送開局
アメリカ合衆国カリフォルニア州でドジャーススタジアム柿落し
東京に後樂園ホールがオープン
シアトル万国博覧会開幕
- 五月 三河事故（列車事故で百六十人死亡）
大日本製菓がサリドマイド製品の販売中止
- 六月 元ナチス親衛隊中佐アドフル・アイヒマン絞首刑
パリ・オリリー空港で飛行機事故（百三十名が死亡）
北陸本線北陸トンネル開通
米アルカトラズ島の刑務所から受刑者三名脱走（同刑務所から唯一の脱走事件）
ジャニーズ事務所創業
- 七月 ルワンダ、ブルンジが其々独立
フランスからアルジェリア独立
戦後初の国産旅客機YS-11完成
全面軍縮に関するモスクワ世界大会
- 八月 ジャマイカがイギリスから独立
シャルルドゴール暗殺未遂事件
三宅島で火山噴火
- 九月 若戸大橋開通（東洋一の吊橋）
イエメンで内戦勃発
- 十月 ビートルズがレコードデビュー
アルジェリア、国際連合加盟

- ウガンダ独立。イギリス連邦加盟は継続
中印国境紛争勃発
新日本婦人の会結成
キューバ危機
- 十一月 サウジアラビア、エジプトと断交
米、ワシントンにダレス国際空港開港
海上封鎖撤回によりキューバ危機終了
イギリスとフランスが超音速機コンコルドの共同開発に合意
- 十二月 キューピー三分クッキング放送開始
首都高都心環状線と一号羽田線の一部が開通

一九〇二年

- 一月 北海道旭川市で気温マイナス四一度を記録（日本の最低気温記録）
八甲田山雪中行軍遭難事件
カーネギー財団設立
第一次日英同盟
- 二月 ベルリン地下鉄開業
- 三月 日本興業銀行設立
- 四月 初の映画館がロサンゼルスで開業
ロシアと清が満州還付条約に調印
グアテマラで大地震（M7.5、死者二千名）
- 五月 西インド諸島のマルティニーク島のプレー火山が噴火（死者三万二千人）
キューバがアメリカ合衆国から独立
ブーア戦争終結。フェリーニヒング条約締結
- 七月 中央本線の笹子トンネル貫通
ロバート・セシル英首相が辞任（後任にアーサー・バルフォア）
北海道、東北地方が冷夏に見舞われ大凶作
- 八月 伊豆鳥島が大噴火、島民百二十五人全員が死亡
- 九月 江之島電気鐵道（後の江ノ島電鉄）開業（藤沢・片瀬間）
フランス映画「月世界旅行」公開。世界初のSF映画
足尾台風来襲。相模湾で高潮（小田原大海嘯）が発生
- 十月 早稲田大学開校式（初の私立大学）
- 十二月 教科書疑獄事件で二百名以上が摘発される。
衆議院解散
- 第一回南極探検。ロバート・スコットら南緯八二度一七分に到達。

一八四二年

一月 天保の改革。江戸幕府が株仲間解散令発布

五月 ハンブルク大火発生

八月 米英両国の間でウエブスター＝アッシュバートン条約締結

アメリカ合衆国とカナダがウエブスター＝アッシュバートン条約に調印

清国とイギリスの間で南京条約が締結されアヘン戦争終結

インディアン（第二次セミノール）戦争が終結。

江戸幕府が異国船打払令を廃止、薪水給与令制定。

● 来年の予測 まとめ

来年の時局は、今年に比べると対応しなければならぬ仕事がとても多くなると予想される。人事を正しくし、野心や私利私欲を持った佞人を退けながら剛健闊達に処していかねばならない。

虎には、「従来表明してきたこととまるで違った変化をする」という意味で使われる「君子豹変」「大人虎変」という言葉が易経の「沢火革」の卦にある。これは、組織のトップが、虎の毛の輝くように鮮やかに、周囲の目を見張るくらいに自分の思想・信念・態度・行動を明確にしろ、ということである。そうすると、それに応じて顧問たちも「君子豹変」する。大切なことは、言うよりもまず上に立つ者が形で見せることである。所謂虎変・豹変しなければならぬ。それを逆に国民に向かって「あしろこうしろ」と言ってもダメだということを「易経」は説いている。

それにはやはり、トップは虎のように威厳が合って力強く、時には凄みが必要である。猫のようではいけない。かといって、ニセモノの虎ではどうしようもないから難しい所だ。

今月も、健康と健闘を！